

令和5年度自己評価表

鳥取県立境高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	価値観が多様化する時代を生き抜く力と豊かな人間性を育成する。 ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路目標を実現する。 ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る。 ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。	今年度の 重点目標	「BIG」に育て境高生 1 部活動による人間力の伸長 【B】 2 生きる力（探究力）の育成 【I】 3 学力の向上と進路実現 【G】 4 学校業務改善の取組を進め、学習指導をはじめとする生徒に対する指導の充実を図る。
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初				中間評価			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 部活動による 人間力の伸長	○「部活動に入って しっかり頑張った」 と回答する生徒の割 合が8割を超えるこ と。 ○全国大会出場者が 80名、入賞者が5名 を超えること。 ○中国大会出場者が 200名を超えること。	○1月生徒アンケート結果「部活動に入ってしっ かり頑張った」で「あてはまる」と回答する生徒が 70.6%（「だいたいあてはまる」を合わせると 87.1%） ○部活動加入率は8 5 %を超え、生徒は積極的に活 動に取り組んだ。 ○全国大会出場者6 0 名（入賞者0名）、中国大会出 場者数1 3 7 名（近畿大会含む）	○文武両道の活力があり地域 の誇りとなる普通科高校とし て存在 ○県トップレベルの実績を持 つ部活動を維持育成し、学校 内外に活力ある境高を発信	○学年ごとの目標学習時間（1年2 時間以上、2年3時間以上、3年4 時間以上）をもっと周知、呼びかけ する。 ○学習と部活動の両立について、顧 問から積極的に指導をする。	○学習時間確保を繰り返し説いているが、まだ不十分である。根気強く指 導を続けていくしかない。 ○学習時間調査では1年次生は目標をクリアしている。2年次生は学習時 間が少ない人がいるために目標に届いていないが努力している生徒也多 い。3年生は目標に届いていないが進路目標に向かって努力している生徒 は多くいる。 ○多くの部活動が県内でトップレベルの成績を残している中で、文武両道 の意識を継続させることが難しい。今年度の1年1組は学習への意識も高 く、7月進研模試で好成績を残している生徒も多い。こういう雰囲気を学 年全体に広げたい。 ○部活動加入率は8 0 %を超えている。 ○ハンドボール部男女、陸上競技部、ヨット部、写真部が全国大会に出場 した。また、弓道部、バドミントン部男女、硬式テニス部男子が中国大会 に出場した。	B	○目標を早期に大きくもたすことが大切 である。1，2年次生には1学期期末以 降にイベント等を行っている。 ○今の自分を超えて、より高いレベルを 目指す指導を行う。部活動に加入してい ない生徒には、様々な活動に挑戦するよ う目標を持たせる。 ○部活動と学習との両立に向けて効率よ く練習に取り組むよう引き続き働きかけ る。
	○ボランティア活動 や地域の活動に参加 する生徒の数が2 0 0名を超えること。	○ボランティア参加者は延べ1 6 9名。 ○計5回のスクールプロジェクトを通じて地域の小 学生と学習やスポーツ・芸術の交流を行うことがで きた。	○地域のボランティア活動へ の積極的な参加 ○部活動において地域の人材 の力を借りたり、生徒が小中 学生に学習やスポーツを指導 したりすることで地域の信頼 を獲得	○ボランティア募集情報を生徒に伝 え、積極的な参加につなげる。 ○生徒向けボランティア講座を開催 する。	○意欲的に参加しようとする生徒が多数いる。自分の将来を考えて、目標 とする進路に関わるボランティアに参加する生徒が増えた。 ○スクールプロジェクトは実施予定である。中学生の高校参観などで生徒 ボランティアの参加が見られた。 ○8月末までのボランティア申し込み者数は延べ1 0 4名であった。		
2 生きる力 (探究力) の育 成	○「自分や他人を大 切にすることができ た」と回答する生徒 の割合が9割を超え ること。 ○「生徒は自分や他 人を大切にすること ができるようになった 」と回答する教員の 割合が9割を超える こと。	○アンケート「自分や他人を大切にできる」の回答 「あてはまる」71.8%「だいたいあてはまる」 26.7% ○QUを用いて生徒の抱える問題の早期発見に努め、 学級の実態を把握した。日頃の相談活動から得た内 容や気になる生徒の情報を教職員間で共有してい る。また、学期1回の生徒情報交換会を行うことで 組織的な対応に繋げて問題解決にあたった。 ○1年次生対象の自己理解他者理解の講演会を1 2 月に実施した。 ○命の教育講演会を1，2年次生対象に1月に実施 した。	○生徒一人ひとりの状況を全 教職員が把握できているとい う人権尊重意識の高い職場 ○人権教育全体計画に基づい た規範意識・人権意識の高揚	○多くの生徒が自分や他を大切にで きるという問いにポジティブな回答 であるが、クラスや部活動内など個 別の対応をきめ細かく行う必要がある 。 ○分掌間の連携により生徒情報を共有 し、問題事案に対して組織的に対 応する。 ○今後も生徒の行動、発言、様子を 見守り、状況に応じた適切な指導を 行う。	○学事システムの活用により、生徒の所見情報が以前よりより共有できる ようになっている。 ○元気に学校生活に取り組んでいる生徒が多いが、友人関係や人間関係で 悩む生徒が増加している。 ○Q Uや生徒面談から生徒の問題の早期発見に努め、学級の実態を把握し ている。 ○何かあれば、学年担任会や運営委員会で生徒の情報を教職員間で共有 し、特性を持った生徒には、保護者、外部機関と連携して問題解決にあ たっている。 ○学期1回の生徒情報交換会を行うことで全職員に共通理解を図り、生徒 の指導に取り組んでいる。	B	○引き続き、分掌間の連携と管理職の援 助により生徒情報を共有し、問題事案に 対して組織的に対応する。 ○引き続き、生徒の行動、発言、様子 を見守り、状況に応じた適切な指導を行 う。 ○挨拶ができることが本校生徒の良さな ので、職員全体がそれを認識して取り組 む。 ○学校生活のきまりが守れるよう学年団 との連携や後期生徒会執行部の活動を通 して生徒により一層働きかける。
	○「挨拶・服装等け じめのある学校生活 ができた」と回答す る生徒の割合が8割 を超えること。 ○ゴミの分別・減量 化について、平成25 年度との比較で継続 して減量を実現する こと。	○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」 は「あてはまる」72.1%「だいたいあてはまる」 26.7%。 ○「校内外の清掃に勤しみ、ごみの分別等もしっ かりできた」の回答「あてはまる」51.8%「だいた いあてはまる」38.2% ○環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化な どの活動を継続して行っている。 ○挨拶の習慣が定着している生徒が多い。 ○服装・頭髪の規則に関しては概ね守れているが、 スカート丈の短い女子生徒やネクタイ未着用が目 立った。 ○SNSのトラブルはほとんどなかったが、校内で のスマートフォン使用違反が2 5 件あった。	○挨拶の励行、服装・清掃指 導等の徹底 ○生徒が主体となって取り組 む学校環境の整備	○生徒会執行部や部活動が中心とな り、活発な挨拶ができるよう働きかけ る。 ○挨拶の励行、服装、清掃活動は、 細かいところに目を配り、継続して 指導する。 ○スマートフォンの使用については 校内での使用ルールを徹底する。	○環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化などの活動を継続して 行っている。 ○挨拶の習慣が定着している生徒が多い。 ○頭髪・服装に関しては、ほとんどの生徒が規則を守れているが、女子の ネクタイ未着用が目立った。 ○校内でのスマートフォン使用違反が2 8 件あり昨年の同時期より1 6 件 増加した。		

年 度 当 初					中間評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 学力の向上と 進路実現	○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」と回答する生徒の割合が5割を超えること。 ○国公立大学現役進学者数が30名を超えること。	○「進路目標を定め、その実現に向けて学習を進めることができた」の回答。「あてはまる」37%「だいたいあてはまる」42.7%。 ○「探究学習等に主体的に取り組むことができた」「あてはまる」49.4%「だいたいあてはまる」41.5% ○国公立現役進学者数は24人。 ○1年次生は、地元でのSDGsの取り組みを学ぶ機会を作り、グループ活動を通して自分たちのSDGs目標達成に向けての取り組みを主体的に活動した。2年次生は、地域の方々と一緒に活動をする機会を持ち、グループで主体的に考えた地域をよりよくする提案を実行・評価し、発表した。	○生徒が3年間をとおして進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿の確立 ○キャリア教育全体計画に基づいた明確な進路目標を設定 ○「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うため、境考学を充実・発展	○安易に進路決定するのではなく、より高い目標を掲げて努力するよう指導する。 ○「境考学」などで主体的に活動したことを進路実現の一助にできるよう指導する。	○授業は概ね真面目な態度で臨んでいるが、表面的な学習にとどまっている感がある。家庭学習の不足が拍車をかけ、低学力に繋がっている。 ○みなとテラスの自習スペースを積極的に利用する生徒が増えた。 ○8限講習や長期休業中の講習を受講する生徒は少数である。 ○少ない情報で安易に進路を決めることなく、しっかり時間をかけて研究するように呼びかけを続けていく必要あり。 ○1年次から総合的な探究の時間を通して進路について考える機会がある。 ○8限講習において、模試・入試レベルの問題を取り入れているが、結果に現れるまでには時間がかかる。 ○「境考学」では1年次生は、SDGsセミナーを開催し、23団体46名の方からSDGsの取り組みを学ぶことができた。2年次生は、フィールドワークを実施し、地域に出かけてイベントに参加をしたり、地域の方と一緒に活動をする機会を持つことができているグループもある。	B	○ICT活用についての情報を積極的に収集し、意見交換をしていく。 ○主体的にイベント等に参加する生徒はまだまだ少ない。今後とも情報提供に努めるとともに、各グループの問題課題に適したイベントや外部団体の紹介や連携のノウハウを、コーディネーターと連携しながら、適宜広報し、支援していく。 ○クロムブックを授業内でどのように活用するか、検討を続けたい。
	○「授業の内容に興味がわき、理解が深まった」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○タブレット端末等のICTを活用した生徒主体の授業を8割以上の教員が実践すること。	○「授業に前向きに取り組む、理解を深めることができた」の回答。「あてはまる」46.8%「だいたいあてはまる」47.3% ○1人1台端末の公開授業を行ったが参加教員は少なかった。 ○探究掲示板の作成により、生徒に地域の活動を知らせ、自ら活動するきっかけ作りを与えることができた。	○1人1台端末を用いた授業研究会並びに授業参観週間での各教科代表による公開授業の定着	○授業を中心とした学習指導を継続していく。自学の習慣を身につけさせ、家庭学習を定着させる。また、テスト前にも集中して取り組むよう指導を続ける。自習室の開放を行う。 ○境考学では生徒に対する一層の教職員からの声かけや指導を行っていく。	○タブレットの安易な使用が思考停止に繋がっているのではないかなと思われるが、「境考学」においては有効に使われている。 ○多数の端末でのインターネット利用が不可能な現状では学校全体でタブレット端末を常用した授業を行うのは難しい。 ○いざ授業でクロムブックを使おうとしても、家に忘れる、学校に置いているため充電ができていない等の問題が発生するケースが多い。 ○指導マニュアルを毎回提示し、指導内容の周知を図っている。 ○各教室棟のフロアに「飛び出せ境考学」と題した掲示スペースを設けて、各種イベントの周知を図るなど、生徒の意識を高めるようにした。		
4 学校業務改善 の取組	○行事や委員会等を抜本的に見直す。 ○長時間勤務者の解消	○月における時間外業務80時間超勤務者は0名であったが、45時間超80時間以下勤務者は延べ21名であった。 ○運営委員会の回数は減ったが、業務削減はまだ不十分である。 ○3年次生の面接指導・小論指導は全教員で分担して取り組めたが、指導期間中に他の複数の行事と重なり、教員の負担は非常に大きかった。	○時間外業務の上限が、月45時間、年360時間を超えないよう遵守 ○休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底	○早めに管理職から面談等を実施し、時間外勤務時間の削減を図る。 ○運営委員会等の設定時間、開催回数の見直しが必要。 ○人権LHRと境考学等で担任の負担が大きいのので割り振りや根本など見直しが必要。	○担任と副担任を中心に連携したクラス経営ができている。学年全体で円滑な協力関係ができている。 ○学事システムにおける日々入力への導入により、日常の出欠欠課管理、定期試験後の成績処理業務の負担軽減につながっている。 ○ノーツの活用による文書共有、電子掲示板機能の利用により、従来のホワイトボードを利用した掲示板の廃止や文書管理など効率化が図れた。 ○グーグルフォームの活用によりアンケート処理などの事務労力が軽減できている。 ○百問繚乱の導入により採点業務、成績処理業務の効率化が行えた。 ○推薦・総合型選抜対策の個別指導が、2学期、教員の負担を増やしている。	B	○学年、分掌、部活動が連携し、様々な角度から生徒を指導できる体制を作る。 ○引き続き声かけを行い、教職員の心身の健康維持を推進する。

評価基準
 A：十分達成〔100%〕
 B：概ね達成〔80%程度〕
 C：変化の兆し〔60%程度〕
 D：まだ不十分〔40%程度〕
 E：目標・方策の見直し〔30%以下〕